

2013年6月24日

## 2013年度 大学間連携共同教育推進事業による統計検定のご案内

文部科学省の事業として選定された「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」では、大阪大学を含む8大学が「統計教育大学間連携ネットワーク(略称 JINSE)」を組織し、統計教育の改善に取り組んでいます。連携8大学では、統計教育を評価する手段として日本統計学会公式認定の「統計検定」を利用します。この制度を利用して統計検定を受験する連携大学の学生には受験料は発生しませんが、成績を含めたデータが統計分析に利用されます。また、試験にともなうアンケート調査への回答も求められます。ただし、これらのデータは統計分析のみに利用され、個人情報特定されることはありません。このような形でデータが利用されることを了解の上、受験してください。この条件に同意できない学生は、一般の受験者として統計検定を受験してください。なお、認定される資格は一般受験と同一です。

受験申込の際に入力された個人情報は、統計検定の実施運営、その他の統計検定に関する各種案内のみに使用されます。これは一般受験でも同様です。

統計検定の過去の問題等は、下記のURLから入手できます(「統計検定」で検索)。

統計検定 URL: <http://www.toukei-kentei.jp>

### 実施要領

1. 日時:2013年11月17日(日)

#### 午前の部

2級:10:30-12:00(90分)

4級:10:30-11:30(60分)

専門統計調査士:10:30-12:00(90分)

#### 午後の部

1級:13:30-15:30(120分)

3級:13:30-14:30(60分)

統計調査士:13:30-14:30(60分)

- ◆ 1級は大学専門教育科目、2級は大学共通教育科目のレベル相当です。
- ◆ 午前と午後それぞれ一つずつ(最大二つ)受験することができます。

2. 受験会場

大阪大学 豊中キャンパス 豊中総合学館 301, 302(予定)  
(10:00am から入場可能)

3. 申込方法:web 経由で以下のページから申し込んでください。

- ◆ <http://stat.tama.ac.jp/jinse/toukei-kentei>

- ◆ 申込期間:2013年7月1日~10月10日

- ◆ 連携校による無料受験には上限(連携校全体で2000名)があります。受験を決めた学生は早めに申し込んでください。

4. 受験票および資格認定結果通知

統計検定実施団体である統計検定センターから郵送されます。

問い合わせ先:

基礎工学研究科 特任助教 西田豊(nishida@sigmath.es.osaka-u.ac.jp)

基礎工学研究科 教授 (JINSE 運営委員) 狩野裕 (kano@sigmath.es.osaka-u.ac.jp)

大学間連携統計教育ネットワーク運営委員会(大阪大学)

## 参考情報

### 書籍

一般社団法人日本統計学会編集 (2011). 日本統計学会公式認定『統計検定 問題と解説 2級・3級・4級』実務教育出版.

今泉 忠 他 (2012). 日本統計学会公式認定『統計検定2級対応 統計学基礎』東京図書.

二宮嘉行 他 (2013). 日本統計学会公式認定『統計検定 1 級対応 統計学』東京図書.

### 1 級問題例

正規分布  $N(\mu, 4.0)$  から取られた大きさ  $n$  の無作為標本の標本平均を  $\bar{X}$  とする.  $\bar{X}$  を検定統計量として, 帰無仮説  $H_0: \mu = 0$  を対立仮説  $H_1: \mu > 0$  に対して検定したい. ここで検定のサイズ (有意水準) は 5% とする. 以下の問いに答えよ. ただし, 標準正規分布の上側 5% 点  $u(0.05)$  および 10% 点  $u(0.10)$  の値は, それぞれ, 1.645 および 1.280 である.

[1] 検定の棄却域を  $\bar{X} > c$  とするとき, 定数  $c$  の値を  $n$  を用いて表せ.

[2]  $\mu = 1$  における検出力を 0.90 以上とするためには,  $n$  の値はいくつ以上でなければならないか.

### 2 級問題例

ある試験を行ったとき, 平均値が 60 であった. 加藤君の点数は 74 点で, 標準得点は 2.34 であった. また, 伊藤君の標準得点は 1.67 であった. 伊藤君の素点はいくらか. ① から⑤ の中から一つ選びなさい.

- ① 53   ② 61.67   ③ 70   ④ 79   ⑤ 標準偏差の情報がないために求められない

15 **オピニオン** 12 版 ▲ 2012年(平成24年)6月27日 水曜日 享月 日 薬行 局

資格試験は、需給のバランスを考え、取得する必要があります。つまり、その資格が世の中に必要とされているかどうかです。

私は大学在学中の1988年に当時最年少の19歳で、会計士補の資格を取りました。実務を経て公認会計士にならざる資格です。勉強は高校時代から始めていました。

国をあげて貯蓄から投資に向かっていた時代で、会社の監査に関するコンプライアンス(法令順守)も厳しくなっていた。あまり知られていない資格でしたが、需要はたくさんあったので

公認会計士はいま、超人気資格ですが、需給はどうでしょう。私が受験したころは試験の合格者が年400人でしたが、一昨年は千人まで増えました。その結果、合格してもなかなか仕事につけない状況です。法科大学院でも、司法試験に合格したのに仕事がない問題が起きています。資格の取得希望者をだましているとは思いませんが、どちらかといえば供給過剰です。

合格が難しい資格でも、「水戸黄門の印籠」のような対外的な効果はありません。資格を取ったからといって、万々歳ではないのです。

私がいま高校時代に戻るとしたら、

経済評論家  
かつま 勝間 かつよ 和代さん

資格大国ニッポン ③

## 取るなら需要を考えて

英語、中国語と、もうひとつアジアの言語を学びます。日本とアジアのビジネスをつなげるような人材が必要とされているからです。商社は高収益を上げたい。まず、当然と勉強しても仕方がないので、たとえば英語ならTOEICの点数を上げるように努力しつつ、マスターしていきます。

統計学も本格的に勉強するでしょう。いまはネットが普及し、膨大な量のデータが日々生み出されています。そんな「ビッグデータ」と呼ばれるものを、統計、分析して社会に生かす人材が必要とされているのです。統計に関する知識や活用力を評価する「統計検定」があるので、勉強の目安にできると思います。

このころは、このころの職業につきたいというスキルをアップしたいとか、明確な目的意識があったり、資格や検定の試験を受けるというですね。

そういう意味では、資格マニアの人には、言えます。資格を取るがなと自分で目的にするのは、いかなるものでしょう。別に趣味のひとつだというなら、止めません。だけど、本業をおろそかにすると、話が違わんじやないかと思えます。

聞き手・高野真由

◇次回は7月3日に掲載します。

68年生まれ。米コンサルティング会社のマッキンゼーなどを経て、07年に独立。近著に「『有名人になる』ということ」。＝西田裕樹撮影